

「乍畧儀以書中」と 憲派からのお手紙

ベラボーメ馬鹿にするなど
赤坂革新がお腹立ち

石城憲派では既報の如く比
佐昌平氏を満場一致で代議
士候補に推挙し上げ前回の雪
辱戦である處から躍氣とな
つて必勝を期事となつたが
推薦者の中には折角
三派提携と云ふ事になり、
「護憲」の二文字の前にお百
度を踏んで禮拜した手前
づ此際形式だけでも革新
派の赤坂龍次郎氏にヨロシ
クタクムと云つた調子で持
ち掛けねば

螢雪の功

磐中の受賞者

縣立磐城中學校卒業生は昨
記の如くであるが成績優良
者や精勤者の氏名は左の如
くである

通學拒絶

炭礦の兒童に

石城郡窪田村第一小學校の
兒童数は大正十二年度に於
て千十名に達し校舎が狭く
なつたので二學級を増築す
る迄は同村炭礦方面から在
學して居る二百四十人の兒
童の通學を拒絶する事とな
つたので一時なりと雖も通
學拒絶は穩かならぬ問題な
りとし目下紛議を醸して居

櫻で飾る

草野村の美譽

石城郡草野村渡邊善吉氏外
十一名は同村停車場前の奥

御厚情に酬ゆる一端

帝國館に讀者慰安の催し

本紙百號紀念に

本紙は来る十三日が百號に
達するのでいさゝか其祝意
を表すると共に讀者諸彦日
頃の御厚情に報ゆる一端と
して同日午後六時から帝國
館に愛讀者慰安會を開き本
紙の讀者に限り活動寫眞の
無料觀覽をお薦めする事と
なつたが同夜は暮合に川崎
本社長の挨拶あると共に特
に館主の厚意に依る讀者優
遇の方法を講ずる由であつ
て目下準備に忙殺されて居

師範卒業生

本郡出身の
男女廿三名

本縣師範學校本年度卒業生
にして本郡出身者は廿三名
であるが其氏名左の如し
(男子部)上川恒平、下山
田光平、門馬武、蛭田寅
之助、鈴木吉太郎、横田
瀧藏、賀澤龍雄、根本茶
雄、川英雄、橋田三郎、松
崎昌太、永山喜久、岡部
本茂壽、福羽全海、岡部
政一、四家政男(女子部)

湯本の陳情

昨日郡長に

石城郡湯本町於ける温泉及
び飲料水の枯渇せるは既記
の如くであつて町民保健上
の由々敷き一大問題である
と昨日伊豆助役若松條助、
木村順平其他有志は郡衙に
出頭佐瀬郡長に面接し善後

夏井川河口の水田

其面積六町五反餘

連日堰止め工事に努力

石城郡夏井村の夏井河口に
海波押し寄せ附近の水田約
六町五反餘は塩水浸入し被
害甚だ大きいので去月廿三
日から毎日同村の人夫百廿
名宛交替にて出動し鹽水浸
入の防止工事に努力した結
果三日午後漸く堰き止める
事が出来たが何時崩される

入山第五坑の 尊き犠牲者

崇嚴な合葬式

石城郡湯本町入山第五坑の
尊き犠牲者十三名の屍體は
既記の如く全部發掘されし
を以つて本日午後一時から
礦務所南方廣場に於て入山
説教所小野僧侶導師の下に
楠勝行院森善寺兩住職外
内郷村及び平町各寺院僧侶
仙臺本願寺別院輪番等十三
名各遺族廣瀬專務柏木重役
吉本礦務所長以下職員全部
參列崇嚴なる合葬式を營む

母を慕つて

悲業の最後

石城郡錦村大字上中田五十
石久藏三女ヲツ(三)は三日
午後二時半頃隣家なる鐵道
西側の葬式手傳へに行つた

不平受付

就學の注意

届出が少ないことか話です
が今迄は毎年就學兒童の保
護者に何等かの通知があつ
た様に思ひますが、本年は
夫れがありません、其爲め
届出期間を知らずに居るも
の多からうと思ひます
(一保護者)

眞面目な問題

男子と平行
して女子が

男子と平行して女子が
貧弱なる身
體を持つた
は是は何れ
の國民にあ
りても忍ば
なければなら
ぬのである
。日本の女子
は或る角度
を持つて男子
以下に貧弱
なのである
。此は日本の
在來の社會
生活が大體

磐城高女の お別れの會

賑々しい催し

既報磐城高等女學校にては
本日午後零時から同校作法
室にて卒業生のお別れの會
を開き在校生の唱歌や餘興
の假裝行列に賑ひを呈した

美善

響く鐘の音

イト製造を目的とした磐城
電化株式會社を創立すべく
株の募集中であつたが締切
前既に満株の盛況を示し來
る廿一日創立總會を開く由

不平受付

就學の注意

届出が少ないことか話です
が今迄は毎年就學兒童の保
護者に何等かの通知があつ
た様に思ひますが、本年は
夫れがありません、其爲め
届出期間を知らずに居るも
の多からうと思ひます
(一保護者)

母を慕つて踏切を通過の際
上り客車に觸れて頭部を粉
碎し見るも無慘に斃死した
平陽實科募集平町田
町平陽裁縫女學校は今回平
陽實科女學校と改め參ヶ年
卒業の高等女學部を置き生
徒募集中である由
丸登式利殖法平町字
田町丸登株式店主川添房次
郎氏は株式投資の方法に依
り年三割以上の利益配當保
證附を以つて一口十圓宛の
共同出資を募集中であるが
問合せ次第説明書を送附す